

第3号議案

都立日比谷公園の再生整備計画について

中間のまとめ(案)

An architectural rendering of a revitalized Hibiya Park. The scene is a wide, open public space with a large paved plaza in the foreground featuring several water fountains. People of various ages are depicted walking, sitting on the grass, and playing. In the background, there are modern, multi-story buildings and trees with autumn foliage. The sky is bright and clear.

日比谷公園再生整備計画（中間のまとめ）

概要版

目次（概要版）

第1	計画条件の整理	
1-1	日比谷公園ランドデザイン	1
1-2	社会的特性	2
1-3	日比谷公園の概要	3
第2	日比谷公園再生整備計画の考え方	
2-1	再生整備計画のテーマ	4
2-2	日比谷公園の使われ方のイメージ	5
第3	日比谷公園再生整備計画	
3-1	グリーンインフラとしての再生整備	
1	日比谷公園の将来イメージ	6
2	空間計画	7
3	景観計画	8
4	植栽計画	8
5	環境計画	9
3-2	主な取組	
1	施設計画	
(1)	入口と外周	11
(2)	主要園路	12
(3)	雲形池とその周辺の空間	12
(4)	第一花壇周辺	12
(5)	心字池と日比谷見附周辺の空間	12
(6)	公会堂前から小音楽堂の広場空間	13
(7)	H I R O B A s（仮称）	14
(8)	大音楽堂	15
3-3	主な取組	
2	運営計画	
(1)	多様な主体との連携	16
(2)	民間活力の導入	16,17
(3)	D Xの推進による管理運営	16
(4)	利用のルール	16

1-1 日比谷公園グランドデザイン

2017年10月 学識経験者等で構成する「日比谷公園グランドデザイン検討会」（委員長：進士五十八 福井県立大学学長）設置
2018年12月 「日比谷公園グランドデザイン～5つの提言～」を公表

日比谷公園の将来像～5つの提言～

I. 誰もが迎え入れられ、心地よく過ごせる上質な公園

- i. 緑に包まれた潤いある心地良い空間を創出し、新たなライフスタイルを提案する
- ii. バリアを無くし、誰もが利用しやすいインクルーシブな空間を創出する
- iii. 安全、快適かつ自由に多様な人々が訪れることができるよう、公園と周辺のまちとのアクセシビリティを向上し、回遊性を確保する

II. まちと連携し、相乗的に新たな魅力を生み出す公園

- i. 公園とまちが相互に連携、連動し、芸術やエンターテインメントの多彩な魅力を先導的に打ち出す
- ii. 公園とまちを回遊しながら一体的に利用できるよう誘導する
- iii. 周辺のまちを背景として、歴史を積み重ねた公園ならではの魅力的な景観を見せる

III. 歴史的、文化的価値を顕在化させた特別な公園

- i. 開園当時の設計思想を継承し、特色のある園地やシークエンスを活かす
- ii. 歴史的、文化的価値のある公園施設を保全、修復し、活用するとともに、歴史を感じさせる緑を活かし、風格のある地域景観を形成する

IV. 緑とオープンスペースのネットワーク形成の核となる公園

- i. 日比谷公園と皇居周辺の緑が核となって、緑の回廊を形成する
- ii. 皇居外苑等との一体感の創出や一元的な情報発信等により、中央公園（セントラルパーク）として一体的な利活用を促進する

V. 多様な主体と連携し、利用者の視点で運営する公園

- i. 都民、NPO、企業や周辺のまちと連携しながら、公園全体を維持、運営し公園の魅力向上を図る
- ii. 周辺のまちづくりを担うエリアマネジメント団体等との連携を進め、公園とまちとの一体的な運営を図り地域の魅力の向上を図る

日比谷公園の区域別将来像

（開園130周年を迎える2033年の姿）

【区域①】緑に包まれ誰もが思い思いに過ごし、賑わいの拠点ともなる区域

- 日比谷公会堂を中心としたヴィスタ景観を継承し、憩いと賑わいの場となる開放的な空間
- 芸術やエンターテインメントなど多彩な魅力を先導的に打ち出す空間
- 歴史的、文化的価値の高い資源を保全、修復し、公園の顔として活用する空間

四阿付近から見る雲形池



大噴水上空から見る第二花壇



【区域③】皇居の緑との一体感が感じられ、多世代が生き活きと活動できる区域

- 日比谷公園と皇居周辺の緑が形成するエコロジカルネットワークの結節点となる空間



- セントラルパークとして皇居外苑等との一体感を創出する空間
- すべての世代が生き活きと活動したり、憩い、佇むことが出来る空間

祝田門付近から皇居を望む



第一花壇の様子



【区域④】東京の歴史を学び、緑の中で文化を育み、まちに発信する区域

- 公園で育んだ歴史、文化、芸術を世界に向けて発信する空間
- 豊かな緑の中に歴史的建造物もつ風格と現代建築の魅力が融合する空間
- 官民連携で、まちに開かれた賑わいを創出する空間

これの木広場から見る公会堂



【区域②】江戸・東京の歴史を体感でき、丸の内・有楽町への玄関口となる区域

- 近代的洋風公園として風格ある景観で、花と緑に包まれ、誰もが心地よく過ごせる上質な空間
- 江戸の遺構を活用して皇居との一体感を演出し、東京の歴史を体感する空間
- 周辺の街や皇居外苑等からの玄関口として回遊性を高める空間

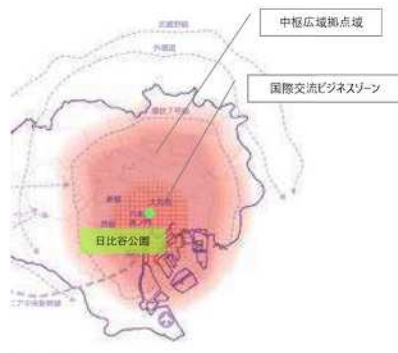
1-2 社会的特性

周辺環境

目指すべき新しい都市像

日比谷公園が位置する国際ビジネス交流ゾーンでは、国際的に高い水準を持つ緑豊かな都市環境の整備が求められている。

(H29.9 東京都「都市づくりのグランドデザイン」)



都心に立地し、性格の異なる「まち」に囲まれる日比谷公園

日比谷公園は、北側に皇居と周辺の緑地と国際的なビジネス拠点である大手町・丸の内・有楽町、東側に文化・交流・迎賓・業務機能を持つ日比谷・内幸町、南側に業務・商業・居住機能が集積した新橋・虎ノ門、西側に政治・行政の中心である霞が関といった性格の異なるまちの中心に位置している。



再開発が進む有楽町、内幸町地区

日比谷公園に隣接する有楽町1丁目街区では、H30年に「東京ミッドタウン日比谷」が竣工し、約2,200万人の来街者（H31.3時点）が来訪。

令和元年12月の国家戦略特別区域会議において、内幸町駅周辺の都市再生プロジェクトが追加提案された。

- 国際ビジネス拠点形成
- 大規模広場の創出
- 道路上空の公園整備等



社会環境

【少子高齢化と人口減少】

わが国は、出生率・出生数の低迷や、急速な高齢化の進展が社会全体に大きな影響を与えており、東京都における高齢化率は、2050年には40%弱まで上昇すると見込まれている。

【都市化の進展と環境問題等への関心の高まり】

近年における都市化の進展に伴い、地球温暖化及び地下水涵養機能の低下、ヒートアイランド現象の発生、生物多様性の衰退等、様々な環境問題が発生している。

【価値観の多様化】

成熟社会を迎え、国民の価値観の多様化に伴い、歴史・伝統、自然、文化等経済的な側面以外の充足を求めるニーズが高まっており、経済的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさやクオリティ・オブ・ライフの向上等のニーズへの対応が求められている。

※「新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開について」（国土交通省）より一部引用

スマート東京の推進（スマート東京実施戦略 2020.2 東京都）

デジタルテクノロジーの力で地域の魅力向上と都民サービスの質を向上させ、東京の更なる進化を後押しする。

オープンスペースの今後のあり方と新しい政策の方向性

【新型コロナ危機を契機に生じた変化】

- 自宅過ごす時間が増え、運動不足の解消・ストレス緩和の効果が得られる場としての身近に豊かな自然を感じられるオープンスペースの重要性が再認識。
- みどりとオープンスペースは、テレワーカーの作業場所、フィットネスの場所等利用形態が多様化。災害時などの非常時に対応するためのバッファー機能として、都市の冗長性を確保する観点からも役割が拡大。
- オープンスペースを有効に活用するため、エリアマネジメントの中心的な存在として、信頼できる中間支援組織の存在、効果的に活用するための人材育成の必要性が高まっている。

【今後の方向性】

- 持続可能な都市環境を支えるグリーンインフラとしての効果を戦略的に高めていくことが必要。
- ウォークアブルな空間により日常生活の中でも緑とオープンスペースを活用できるようなネットワークを形成することが重要。
- テレワーク、テイクアウト販売への活用といった地域の多様なニーズに応じて柔軟に活用することが必要。
- 災害、感染症等のリスクに対応するためにも、いざというときに利用できる緑とオープンスペースの整備が必要。
- イベントだけでなく、比較的長期にわたる日常的な活用など、柔軟かつ多様なオープンスペースの活用の試行、これを支える人材育成、ノウハウの展開等が必要。

※「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」（国土交通省）より一部引用

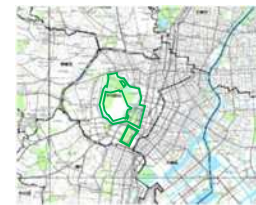
第1 計画条件の整理

1-3 日比谷公園の概要

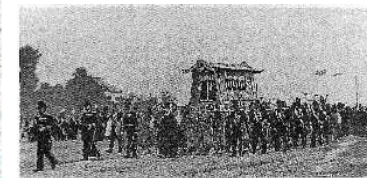
	近代化		震災・戦争	復興→高度成長	安定成長→低成長	新しいステージ
	明治 1868-1912	大正 1912-1926		昭和 1926-1989	平成 1989-2019	令和 2019-
日比谷公園	●開園 1903年(M36) 我が国の近代的洋風公園の先駆け [✓心字池、第一花壇、S字型園路、雲形池、✓運動場、大草地広場✓飲食店] ✓図書館(M39)	震災 1923年 ✓テニスコート3面(T9)→5面(S19) ✓児童遊園(T9) ✓大音楽堂(T12) ✓日比谷公会堂(S4) ・震災時[集団仮設住居] ・戦時中[高射砲陣地、菜園(→児童遊園縮小)] ・戦後は進駐軍が接收	終戦 1945年	東京五輪 1964年 ・公園地下に都市計画駐車場(S33) ・運動場→大噴水・第二花壇など(36) : 政治集会や多様な催事の場としての利用 ✓健康広場(S36) ✓児童遊園廃止→健康広場 拡張(S57)	✓緑の図書館 東京グリーンアーカイブス(H2)	東京五輪 2021年 開園130周年 2033年 日比谷公園 再生整備
<p>東京のシンボリックな公園として先導的な取組 (✓文化の発信 ✓アクティビティの場の提供 ✓知のストック) により、人々に親しまれてきた</p>						

1 日比谷公園の主な特性

- ・都市計画中央公園として、**都心の緑の骨格**を形成
- ・我が国初の近代的洋風公園で、「**3つの洋（洋食・洋楽・洋花）**」を発信
- ・**国家的行事の会場**や東京の観光地、催事等により賑わいを創出
- ・公園内に、先駆的な**新しい活動の場を提供**（大草地(芝生)、テニスコート、児童遊園、健康広場など）
- ・**江戸城の遺構**を活用した日比谷見附跡の石垣に加え、S字型園路など開園時の設計思想を継承して現在に至っており、**文化・歴史資源**が数多く存在
- ・日比谷図書文化館や緑の図書館などには、**まちや公園の史料**を蓄積



都心の緑の骨格



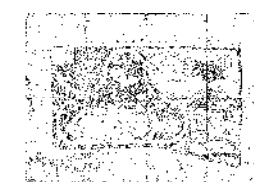
伊藤博文の国葬



絵葉書（つつじ山）



催事による賑わい



【竣工時(1903)】



雲形池 S字型園路

第一花壇 石垣と心字池

【現在(2020)】

2 日比谷公園の主な課題

- ・利便性が高い立地条件にあるが、広幅員道路や地下道からの階段等のバリアが存在し、**まちと公園のアクセシビリティ**が良くない。
- ・皇居外苑等との**回遊性**や**景観のつながり**が弱い。樹木や施設が視線を遮って園内外の**視認性**が低い。
- ・日比谷公会堂から小音楽堂までの**ビスタ景観**などを活かした**空間利用**（イベント利用等）ができていない
- ・日比谷にまつわる**文化・歴史資源**の分類や整理がなされてこなかった。

東京の「今」を映す

“the park” HIBIYA

明治36年、わが国の近代的洋風公園の先駆けとして開園して以来、各時代の東京の「今」を映し、数々のエピソードを生んできた日比谷公園。その文化・歴史的価値は唯一無二のものであり、東京、日本を代表する世界に誇る公園である。

本計画は、100年余の時代を経て日比谷公園に積層した魅力にさらに磨きをかけ、これまでも、そしてこれからも、東京の「今」を映すこれからの新しい公園像を目指すものである。

時を「つなぐ」

長い時間が紡いできた歴史を、
現在に、そして次世代へと「つなぐ」

人を「つなぐ」

公園と人を、そして、
公園に集う多様な人と人を「つなぐ」

空間を「つなぐ」

都心に存する貴重な公園を、
周辺のまちやみどりへと「つなぐ」

文化・歴史

公園がこれまで紡いできた文化・歴史を、
再発見、再認識してもらう



第一花壇



心字池



初代音楽堂の絵葉書



松本楼のスケッチ（明治期）

利用・連携

まちと共に新たな魅力や賑わいを創出し、
子供から大人まで多様な利用者が楽しめる



新しい働き方



多様なアクティビティ



平日お昼休みの風景



イベント時の賑わい

緑・景観

都心の緑の核であり、心地よく過ごせる
上質な緑の空間を実感できる



まちへのみどりの拡がり



季節に彩られる風景



第一花壇（明治期）



つつじ山の絵葉書

再生整備の3つの取組

- 「のこす」 長い時間を連綿と紡いできた中央公園の文化・歴史や存在を次世代に確実に継承していく
- 「かえる」 公園が持つポテンシャルを最大限に発揮できるよう、公園の設えや使い方を大胆に変えていく
- 「つくる」 多様化するニーズに応えるとともに、公園の立地特性を活かして、全ての来園者にとってWell-being※な新たな公園像を創造していく








※肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること（世界保健機構憲章草案より 日本WHO協会訳）

2 空間計画

(1) 空間の関係性

江戸の遺構を活かした心字池周辺や洋花を発信した第一花壇周辺、新たに再生する多様な広場、ドイツの設計図案を模した雲形池、ビスタ景観を楽しむ公会堂前から小音楽堂の広場など、それぞれ個性ある空間を開園当初から残るS字型園路が結び付けている



 S字型園路	開園当初から残る大園路の回遊性を高め、隣接する空間を相互に結ぶ空間
 心字池と日比谷見附周辺	江戸城の濠を公園に取り込んだ施設の歴史を継承して利活用を図る空間
 第一花壇周辺	開園当時から洋花を発信した施設を継承して和、洋の花の魅力を伝えていく空間
 HIROBAs (仮称) (大芝生広場など)	皇居外苑へのつながりを感じ、プログラムの提供などにより多面的な利用を生み出す空間
 雲形池とその周辺	ドイツの設計図を模して造られた修景池と逍遙樹林を継承して利活用を図る空間
 大音楽堂	歴史を継承し、民間活力導入などにより改築してエンターテインメントを発信する施設
 公会堂前から小音楽堂の広場	拡がりのあるビスタ景観を活かして、広場や芝生地を柔軟に利活用する空間

(2) デザイン等の考え方

歴史性の継承

- 近代的洋風公園を特徴づけている施設等のデザインを継承していく(S字型園路、アーチ灯など)

多様性への対応

- 来園者の誰もが分け隔てなく公園利用ができるよう、ユニバーサルなデザインを徹底する

環境機能の向上

- グリーンインフラとして、地形、植物、水面など自然要素によるヒートアイランド対策への寄与や雨水浸透、生物多様性への対応などに資する公園ならではの空間をデザインする

新旧の調和と対比

- 歴史ある施設と新規に整備する施設の調和や対比を意識し、相互の魅力を引き出す

和の文化の発信

- これまで三つの洋（洋花、洋食、洋楽）に加え、民間との連携などにより、和食の文化、日本の園芸文化、日本の音楽・芸能など日本の文化を発信する

(3) 施設管理

歴史的環境の継承

- 江戸の遺構の石垣や心字池、開園当初から残る雲形池など歴史的資源を積極的に修復し、ICTなどの活用により分かりやすく解説する

安全で利用しやすい公園の実現

- 施設等の安全点検のほか、目視点検、診断等により樹木を更新するなど、適正管理を行う

快適な公園の維持

- 民間と積極的に連携を図るなどにより、上質な施設や空間の維持を図る

潤いのある空間の創出、維持

- 草地や樹林地、水辺など多様な環境を維持し、皇居周辺の緑と連続した生き物の生息環境を保全する（エコロジカルネットワーク）

3 景観計画

園内の空間のつながりや、まちを見る視点、まちから見られる視点など、多様な視点場の創出を目標として再生整備を行っていく

- 雲形池の池岸の視点場から見た鶴の噴水(視対象)など、**空間単位の景観を形成する**
- 主園路等を歩きながら景観の変化を楽しむ**シーケンスを形成する**
- 公会堂から小音楽堂のビスタ景観や、大噴水広場から祝田門までの見通しの確保など、**空間の大きさを感じさせる景観を形成する**
- **まちを望み、まちから見られることに配慮した景観を形成する**



景観形成のイメージ



4 植栽計画

四季を感じる植栽や適切な密度、目標とする植栽空間のイメージを示すなど植栽計画を策定して、更新、整備、維持管理に取り組んでいく

- ICTなどの活用により樹木の状況を把握する
- 樹木診断などにより樹木の保全、更新を図る
- 園地の使い方に合わせて、**樹木密度の調節**を行う
- 日本の植栽文化、園芸文化への認識強化や再生
- 新緑や紅葉など四季の移ろいを感じる落葉広葉樹の占有率を高めていく
- 目標とする植栽景観の創出のため修景施設として適切に管理する

目標とする空間のイメージ



第3 日比谷公園再生整備計画

3-1 グリーンインフラとしての再生整備

5 環境計画

緑陰によるヒートアイランド現象の緩和への寄与のほか、雨水の循環、多様な環境の創出、生物多様性などの環境機能を向上させるグリーンインフラを整備し可視化することで、緑とオープンスペースによる都市環境の向上の取組を先導していく。

ヒートアイランド現象への対応の寄与

- 緑蔭の提供や遮熱性舗装、透水性舗装によりヒートアイランド現象緩和へ寄与していく。（皇居周辺や日比谷公園は比較的溫度が低い）

雨水循環システムの構築

- 園内に降った雨水を集水、浸透させるとともに、雨水浸透を可視化して、水の循環を判りやすく発信していく

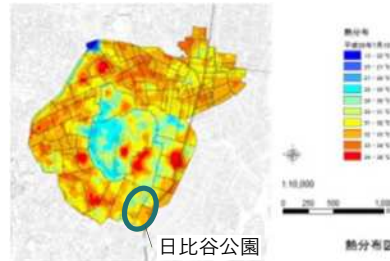
生物多様性への対応

- 日比谷公園と皇居外苑などの緑地には多様な生物が確認されており、公園内に多様な環境を創出して生き物の生息環境を整備していく（日比谷公園は北の丸公園について生き物の確認件数が多い）

防災への対応

- 防災上の役割として、現在は、公園の北西部（区域3）が千代田区の災害時待避所※1に指定され、千代田区の防災備蓄倉庫や1,500トン50万人分の応急給水槽が設置されている
- また、緑と水の市民カレッジは都立一時滞在施設※2、芝庭広場（旧第二花壇）は災害時臨時離着陸場候補地※3に指定されている。
- 再生整備にあたっては、これらの機能を維持するとともに、災害時に来園者の安全性を確保するため、誘導灯の設置や防災訓練など、地域と連携して取り組んでいく

※1 災害直後の危険や混乱を回避し、身の安全を確保するための一時的な退避場所
 ※2 帰宅が可能になるまで待機する場所がない帰宅困難者を一時的に受け入れる施設
 ※3 災害時に必要に応じて使用するため、東京都地域防災計画で予め選定されている



千代田区まちづくり白書（2020.7）より引用



千代田区生き物発見マップ2019



生き物のネットワークのイメージ

持続可能な自然環境の形成に向けて

持続可能な環境貢献の取組を進めるため、日比谷公園全体にグリーンインフラの機能を持たせる。

特に、HIROBAs（仮称）では雨庭（レインガーデン※）を新たに整備する。これにより、雨水処理負荷の軽減・ヒートアイランド現象の抑制・環境教育の場など、環境負荷軽減と環境改善を発信する中心的役割を担っていく。

※雨水を一時的に貯めてゆっくり地中へと浸透させ、水質浄化や修景機能も併せ持つ

グリーンインフラがもたらす価値（SDGs）

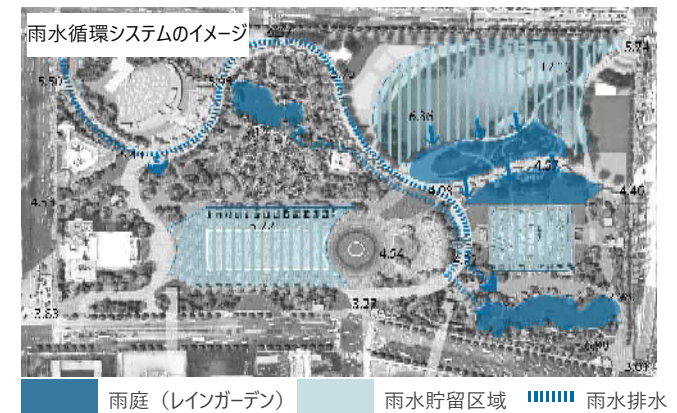
良好な環境、健全な社会の上に経済活動が成り立つという原則。

3. 経済

2. 社会

1. 環境

CO2削減、内水氾濫の抑制、ヒートアイランド緩和等



1 施設計画

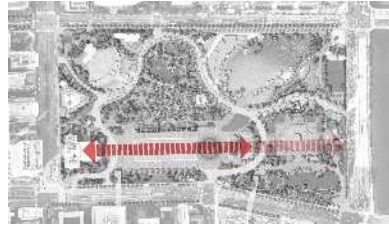
(1)

入口と外周



(3)

公会堂前から小音楽堂の広場空間



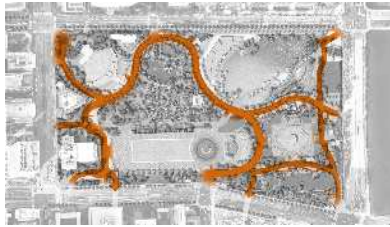
(6)

心字池と日比谷見附周辺の空間



(2)

主要園路



(4)

雲形池とその周辺の空間



(7)

HIROBAS (仮称)



(5)

第一花壇周辺



(8)

大音楽堂



2 運営計画

(1)

多様な主体との連携



(2)

民間活力の導入



(3)

DXの推進による管理運営



(4)

利用のルールづくり

1 施設計画 (1)入口と外周

来園者を園内に迎える入口空間



かもめの広場 (西幸門)

官庁街からの入り口として開放的で大音楽堂とのつながりを感じさせる広場に再生



祝田門

皇居外苑と相互につながりを感じる入口広場を整備



日比谷門

御幸通りから大噴水を見通す開放的な入口として再生



有楽門

公園の外から日比谷見附や石垣が見え、皇居との関係性や公園の歴史性を感じる入口として再生



デッキ

民間資金を活用して公園とまちを道路上空でつないで地域との回遊性を向上せるとともに、公園の新たな視点場や賑わいと交流の場を創出
デッキ下部空間には来園者の休息等に資する機能を配置



日比谷通り、晴海通り、祝田通り

公園とまちと相互の視認性を高めるため、園内やまちの状況に合わせてアクセシビリティを高めるように外周の歩道空間との一体感を創出



6つの門柱

霞門、桜門、有楽門、日比谷門、幸門、西幸門

開園当初から残る6つの門を修復し、歴史性を顕在化



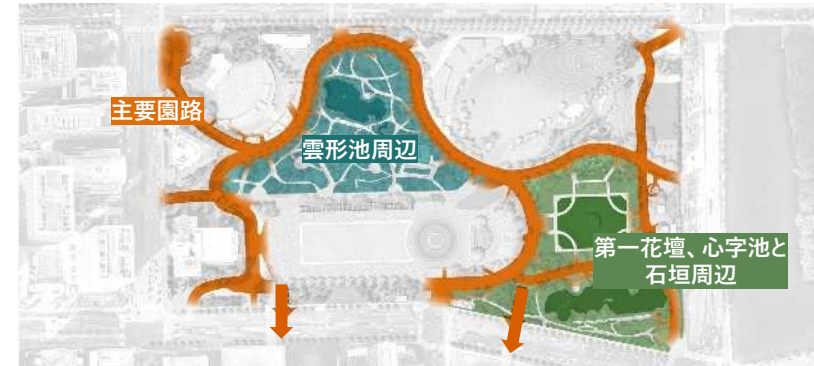
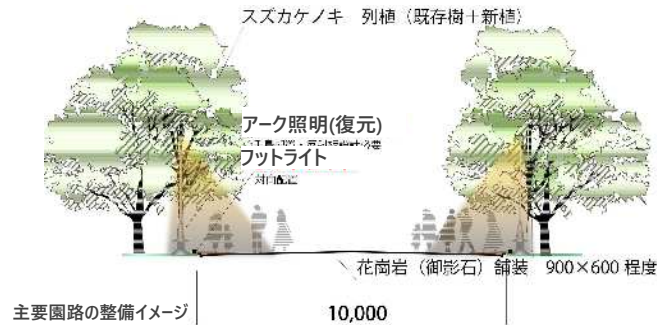
3-2 主な取組

1 施設計画 (2)主要園路・(4)雲形池・(5)第一花壇・(6)心字池周辺

回遊性と景観の軸となる主要園路と、みどりと水に包まれた憩いの場

主要園路 (S字型園路)

- 日比谷公園の特徴であるS字型園路などをバリアフリーで風格ある舗装に改修
- ベンチの配置などにより休憩機能を付加
- フットライト等で主園路をライトアップし夜間景観を創出
- 園路沿い樹木の整枝などにより園路の美しさを演出

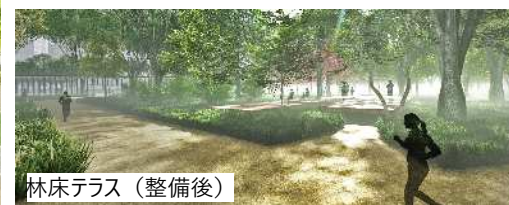


第一花壇、心字池と石垣周辺

- 第一花壇を誰もが四季の魅力や日本の園芸文化を感じる花壇として再生
- 都指定文化財のドイツバungalow風建築の旧日比谷公園事務所を修復するとともに、周辺の植栽を整理して歴史性を顕在化
- 江戸城の遺構を活用した心字池と見附を修復するとともに、親水性を向上、視点場を再生
- 日比谷通りからの石垣の視認性を高めるとともに、植栽により四季の演出を図る

雲形池周辺

- 雲形池や鶴の噴水、周辺の園路を修復して顕在化
- つつじ山に残る貴重種を活かし再生を図るとともに、園芸文化を発信
- 林床テラスを設置し、休憩・休息機能を高める



1 施設計画 (3) 公会堂前広場から小音楽堂までの空間

ビスタ景観を楽しみ、開放的な芝庭広場で誰もが生き生きと過ごせる憩いと賑わいの空間

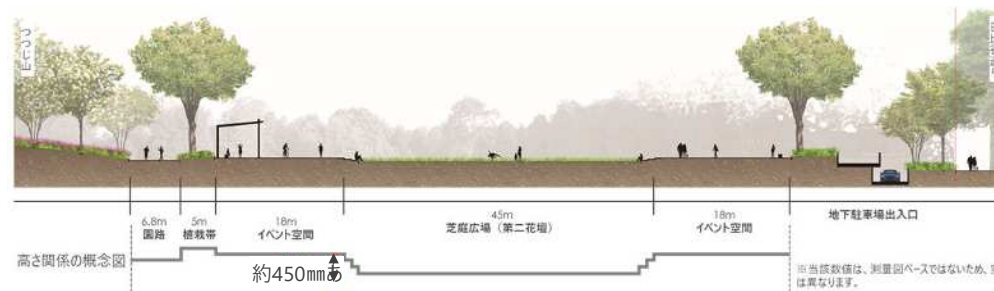
芝庭広場

- 来園者が芝生地に入ることができる芝庭広場を整備
- 眺めて美しく、使って心地よい芝庭広場を維持するための運営・ルールづくり



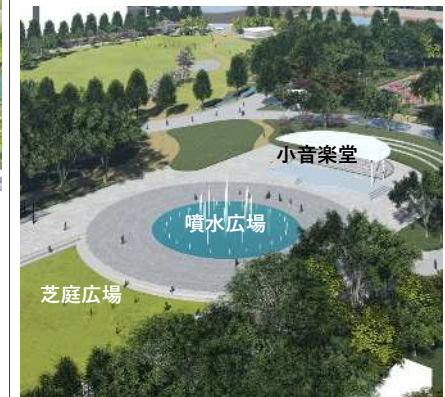
芝庭広場両側園路

- 西側園路に電源などを供給するパーゴラなどを設置して、サードプレイスのような空間を創出
- 両側の園路を拡幅して、イベント時の電気・給排水設備を具備した園路広場を創出
- デッキ下の空間などを利用して芝庭広場の運用に寄与する施設等を配置



小音楽堂

- 小音楽堂のステージや観覧席の高さを噴水広場と同程度の高さまで下げ、一体的な広場として活用できるような施設に改修
- 貸切使用时以外は休憩などの一般利用もできる柔軟な運用



噴水広場

- 日比谷公園を象徴するピスタ景観のアイストップとしての役割を継承しながら、視線を阻害しない高さで大噴水を改修



3-2 主な取組

1 施設計画 (8)大音楽堂

野外音楽堂としての歴史を継承しつつ再整備し、まちへ開けた、公園の顔としての魅力を向上させる

大音楽堂の再整備

- ・ 民間資金の活用により、老朽化が進んだ大音楽堂を改築し、大音楽堂の周辺やかもめの広場も含めて一体的に再整備し、民間による管理運営も行うことで、さらなる賑わいを創出する
- ・ 大音楽堂の外構部は、樹木の整理により視認性を向上させ、憩い・休息の場とし、民間事業者の提案により軽飲食や売店等の便益施設を設置する
- ・ 民間ノウハウを活かした運営により、利用時間拡大等によるルールの緩和など、さらなる利用促進を図る
- ・ ユニバーサルデザインに配慮した、誰もが利用しやすい施設整備を行う



大音楽堂（現況）



大音楽堂外構部（現況）

大音楽堂の機能拡充

控室等の諸施設やバックヤードなどの機能を拡充するため、大音楽堂を拡張しつつ、郷土の森やかもめの広場も含めて一体的に再整備を行う

- ・ 郷土の森を整理し、かもめの広場と合わせて官公庁やまちに開けた開放的な公園の顔となる入口にしていく



控室/楽屋不足(現況)



手狭なバックヤード(現況)

大音楽堂の既存敷地とかもめの広場なども含めて一体的に整備する



かもめの広場・郷土の森の歴史

S61年、東京地方裁判所分室跡地にかもめの広場が開設。第2回全国都市緑化フェアを記念して、広場内に都道府県の木が植樹され、郷土の森となった



戦後の西南角にあった日比谷INN(GHQ宿舎)

かもめの広場

- ・ 段差を下げて歩道との連続性を創出し、出入口としての機能性や景観をさらに向上させる
- ・ かもめの噴水は広場のシンボルとしてのこす



まちへ開けたかもめの広場（整備後）

2 運営計画 (1)多様な主体との連携・(2)民間活力の導入(3)DXの推進による管理運営・(4)利用のルールづくり

多様な主体と連携して様々なニーズに柔軟に対応する質の高い運営管理

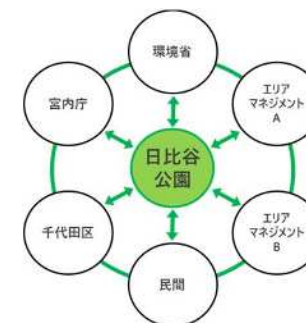
多様な主体との連携

- 公園の近隣企業ボランティアや日比谷図書文化館等の多様な主体と連携し、公園を効果的維持・運営していく
- 緑の図書館や日比谷図書文化館などの知の集積を利活用して、公園の役割や歴史を発信し、体験を促進するほか、緑と水の人材育成など、文化・学習活動の促進の場としていく
- 都市計画中央公園を構成する地元区や環境省、エリアマネジメント等の地域団体との連携を進め、中央公園としてのビジターセンター機能を担う
- 皇居外苑や周辺のみちなど、地域と一体となった一元的な情報発信の推進や、相互の特性を活かした一体的な利活用を促進する

公園内で活動する近隣企業ボランティア



日比谷図書文化館（千代田区）



多様な主体との連携イメージ

民間活力の導入

- 多様な手法により、地域団体や民間企業等との連携を進めて積極的に民間活力の導入を図り、多面的な利活用の推進や公園の活性化、魅力を向上させる（次頁に具体例提示）

DXの推進による管理運営

- 様々なニーズに対応するため、ICTなどを活用し、最新の利用状況や植栽の現況把握、積極的な情報発信などによる新たなパークマネジメントを展開し、より質の高い運営管理を目指す
- 5G・WiFi環境の普及や、先端技術の社会実験の場としての協力など、時代のニーズに積極的に対応できる管理運営を先駆的に行っていく

利用のルールづくり

- 誰もが気軽に訪れ心地よく過ごせる上質な空間を提供するために、公園の利用状況や特性を踏まえ、子どもからお年寄りまで、利用者の様々なニーズに対応できるルールづくりを行っていく
- ルールづくりにあたっては、公園利用のマナーの向上や利用者同士が気遣い、助け合う公園であることをうたう公園憲章を定める等、公園のあり方を先導的に発信したり、指定管理者や地域団体等の関係者との協議会を活用して、公園独自のルールづくりを行うなど、利用者の視点で効果的な運用を行っていく



官民連携イメージ



ICTの利用イメージ

多様な手法により、地域団体や民間企業等との連携を進めて積極的に民間活力の導入を図り、多面的な利活用の推進・公園の活性化・魅力向上を図る

1 大音楽堂

民間資金を活用してかもめの広場と一体的に再整備、民間による管理運営を図り、利用時間の拡大などさらなる賑わいを創出する



大音楽堂（現況）

2 日比谷公会堂

日比谷公会堂を改修して施設の利便性の向上を図るとともに、歴史的な建物を活用したレトロカフェを整備し、民間運営を図ることで施設の魅力を一層高める



レトロカフェイメージ

3 デッキ

民間資金を活用して公園をつなぐデッキ等の整備や管理運営を行い、新たな賑わいや交流、視点場を創出する

4 HIROBAs（仮称）

地域団体などとの連携（協議体づくりなど）により、新たな運営管理の仕組みを構築して、ウェルネスを中心とした多様なプログラムを提供する



雨庭広場から大芝生広場を望む（整備後）



5 公会堂前から広がる広場空間

芝庭広場周囲の園路や広場を中心として、民間と連携して可動式の椅子やテーブルを並べ、憩いづらげる場を提供する

6 第一花壇

近隣企業と協働した花壇運営の取組を拡充して、植栽のデザイン性を高め、四季折々の花の魅力を発信する



昭和4年（1929）当時の第一花壇配植図



第一花壇（整備後）

7 旧日比谷公園事務所

都有形文化財として文化・歴史的価値を発信しつつ、民間のノウハウを活用して多面的な活用を図っていく



旧日比谷公園事務所











日比谷公園再生整備計画について 審議スケジュール(案)

令和元年	10月8日	本審議会 諮問	
令和 2年	11月11日		第1回専門部会
	2月7日		第2回専門部会
	3月4日	本審議会 報告	
	6月19日		第3回専門部会
	6月30日	本審議会 報告	
	10月6日		第4回専門部会
	11月13日		第5回専門部会
	11月30日	本審議会 中間のまとめ	
	12月上旬～1月上旬	都民意見の募集(パブリックコメント)	
令和 3年	2月頃		第6回専門部会
	3月頃	本審議会 答申	